

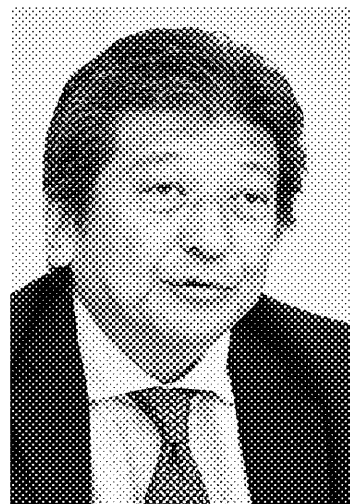
DX関連投資に重点

酒井重工業は道路機械市場で国内で7割強のトップシェアを持つ。2023年3月期は北米やアジアの売り上げが伸び、営業利益が前期比81.2%増の25億円。24年3月期も同17.7%増の29億5000万円を目指す。酒井一郎社長に見通しと戦略を聞いた。

―前期に売上高が大 幅に伸びた北米市場の今期の見通しは。「こちらも堅調を予想する。最大市場のインドネシアは道路、プターとコンテナ船不足で、注文はあるのに対して、注ぎきれない分がある。中国は引き続き低だが今期は改善され、金利上昇による住宅着工減を心配する声もあるが、道路機械は公共工事需要が主体なので建機のシヨベルよりは影響は小さい」

―アジア市場はどうか。「こちらも堅調を予想する。最大市場のインドネシアは道路、プターとコンテナ船不足で、注文はあるのに対して、注ぎきれない分がある。中国は引き続き低だが今期は改善され、金利上昇による住宅着工減を心配する声もあるが、道路機械は公共工事需要が主体なので建機のシヨベルよりは影響は小さい」

酒井重工業社長 酒井一郎氏



「鉄の値上がりは落ち着いてきたが、エンジンや油圧機関係が

稼働把握、海外奥地で有効

は完了済みだ。今期はデジタル変革(DX)関連の投資に重点を置き、3億〜4億円を予定する。営業情報と工場情報をつなぐのは紙ベースだったがデジタル化し、ローラーに装着した全地球測位システム

―電動ローラー開発の進捗は。「オール電動の4トンローラーを開発した。遠隔操縦や自律走行口

「オール電動の4トンローラーを開発した。遠隔操縦や自律走行口

次世代商品開発も焦点

競合の多い欧州を避け、北米とアジア、国内でニッチトップの点を生かして収益を伸ばすのが同社の戦略だ。シェアが高いと値上げも通りやすい。締め固めなど技術の強みを代理店強化に生かせるか。今後は電動ローラーや自律走行ローラーなど次世代商品の開発も焦点になる。(編集委員・嶋田歩)

記者の目

競合の多い欧州を避け、北米とアジア、国内でニッチトップの点を生かして収益を伸ばすのが同社の戦略だ。シェアが高いと値上げも通りやすい。締め固めなど技術の強みを代理店強化に生かせるか。今後は電動ローラーや自律走行ローラーなど次世代商品の開発も焦点になる。(編集委員・嶋田歩)